

令和7年度 立川市立新生小学校 学校評価計画・報告書

重点的に進める目標	学校評価計画				学校評価報告			
	昨年度設定した改善策の概要	評価項目	評価方法	自己評価結果(%)	考察	学校関係者評価の概要	改善策	
確かな学力の向上	<p>◆教員の授業改善に向けた取組(肯定的な評価100%)や子どもたちの頑張りにより、学力が向上した面も把握できているが、児童や保護者の意識として実感できていない部分があるので、以下の方針で来年度、授業改善に取り組む。</p> <p>◆読む話す聞く活動を重視し、ICTを活用して、楽しく主体的に考え表現して学習できるようにするとともに、「比較・関連付けの力」の育成に重点を置き、以下の点から授業改善を推進する。</p> <p>◆なお、授業研究部とICT学力推進委員会が連携して具体的な取組を行う。</p> <p>●すべての教科のベースとなる国語力の向上</p> <p>●新生仕様「子どもに委ねる授業」をテーマに、子どもたちが主体的協働的に楽しく学ぶ場の設定・充実</p> <p>●デジタル教科書と協働学習支援ツール等の「デジタルツール活用法」の充実と実践的活用</p> <p>●「比較関連させる場面」や「既習事項の活用」</p> <p>●楽しく学び意欲を高める学習環境と手だての工夫</p> <p>●学びを振り返り次時へつなげるまとめ学習の重視</p> <p>●企業と連携した、国語の「学力確認テスト」の活用</p> <p>●保護者の方との連携の下、家庭学習やAI機能を搭載したデジタルドリルの活用を推進</p> <p>◆個人面談や保護者会等を通して、「学力確認テスト」をコミュニケーションツールとして、子どもたちの学力や取組の状況について共通理解を図る。</p> <p>◆学校だよりやHPを通して、子どもの学力や学習の様子、学力向上策の状況を情報提供する。</p> <p>◆授業参観については、学期一回実施し、その際授業のわらいや身に付けさせたい力を事前に知らせるとともに、保護者会とセットにする。</p> <p>◆表現力推進委員会で、立川市民科と学級会活動を中心に、子どもたちの思いや願いを大切に探究的な活動や自発的な活動の充実を図る。</p> <p>◆立川市民科では以下の点から充実を図る。【※1】</p> <p>●各教科等の重点単元との関連を明確にしたカリキュラムマネジメント表を活用・改善を図るとともに、子どもたちの状況に即した単元構想をする。</p> <p>●保護者・地域と連携・協働した学習の充実を図る。</p>	<p>◆課題解決力</p> <p>○課題意識をもつ力</p> <p>○根拠を明確にして、考え・表現する力</p> <p>○比較・関連付けの力</p> <p>○学んだことをまとめ次につなげる力</p> <p>◆社会参画力</p> <p>○自分たちや地域に思いや願いをもつ力</p> <p>○自発的な主体的で自立的に行動する力</p>	<p>○左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>※学力確認テストを関連させて評価する。</p>	<p>70 B</p> <p>71 B</p> <p>71 B</p>	<p>◆児童と保護者のアンケートから、肯定的な評価が、3ポイントアップして、過去3年間で初めて、7割を超えた。</p> <p>◆児童と保護者のアンケートから、肯定的な評価が、8ポイントアップして、過去3年間で初めて、7割を超えた。</p> <p>◆「課題解決力の育成」を目指して、ICTを活用しながら、「委ねる学び・授業づくり」を推進してきた結果、意図面と、学力確認テストの両面から実質的な成果が、少しずつ表れてきている。</p> <p>◆「課題解決力の育成」を目指して、ICTを活用しながら、「委ねる学び・授業づくり」を推進してきた結果、意図面と、学力確認テストの両面から実質的な成果が、少しずつ表れてきている。</p> <p>◆来年度も引き続き、アンケートと学力確認テストの結果等を踏まえ、以下の点に重点化して学力向上を推進する必要がある。</p> <p>○読む話す聞く活動の重視</p> <p>○「比較・関連付けの力」の育成に重点</p> <p>○「委ねる学び・授業づくり」の更なる推進</p> <p>・カリキュラムマネジメントの推進</p> <p>・振り返りの時間の重視</p> <p>・同歩を充実させるための方策の検討</p> <p>○個別最適化と協働的な学びの観点からのデジタルの活用</p> <p>◆算数における基礎学力の定着を図るための方策の検討(TVDドリルの廃止)</p> <p>◆算数少数数でのレディネステスの活用</p> <p>・算数確認テストの導入</p> <p>・AI機能搭載デジタルドリルの活用</p> <p>◆カリマネをより一層意識して、立川市民科の学習をさせるとともに、委ねる学び・授業づくりとも関連させて、「社会参画力」を更に高めていく必要がある。</p>	<p>◆考察の内容は概ね妥当である。</p> <p>◆社会や事象の変化に応じた様々な取組に敬意を表する。</p> <p>◆デジタルの活用が便利な一方で、適切な使い方ができる知識も必要である。</p> <p>◆アナログ的な体験も引き続き取り組んでほしい。</p> <p>◆ノート指導も併せて、デジタルを活用していただきたい。</p> <p>◆ICT活用の中で、豊かな視覚教材のより一層の活用を期待する。</p> <p>◆学力確認テストやアンケートの結果から、学力の向上が見られる。</p> <p>学校公開でも児童が授業に集中して取り組んでいた。</p> <p>◆授業参観でどの学年も、読むことや話すこと・聞くことが上手になってきていることがよく分かる。</p> <p>◆楽しく学習していて、そのことはとても大切なことである。</p> <p>◆委ねる学び等の授業改善が児童の学力向上につながっているように思う。</p> <p>◆アンケートの内容が分かることとおよび、</p> <p>◆教員が取組目標の内容を教員がよく理解して取り組んでいるとしたら素晴らしい。</p> <p>◆「課題解決－自力解決・学び合い－まとめ」という流れはよい。</p> <p>◆デジタルの活用の効果を長期的に見ていく必要がある。</p> <p>◆昨年度は、課題解決力に対する、児童と保護者の認識に乖離があったが、今年度は児童の意識が向上し、その乖離が解消されつつある。</p>	<p>◆ICTを活用して、「読むこと・話すこと・聞くこと」に重点を置き、子どもたちの主体性を重視した、「子どもたちに委ねる学び・授業展開」を推進することで、様々なアンケートや調査で学力の向上が見られてきた。</p> <p>◆「ゆたかな心」に関する取組の結果、「自己有用感」「自己効力感」がプラスの変容を続けていることも踏まえ、国語等の学習への興味関心や意欲を高めながら、本校の子どもが苦手であり課題である「書くこと」について、取り組みをい必要がある。</p> <p>◆以上のことを受け、来年度は、以下の方針で学力向上に取り組む。</p> <p>●授業改善策</p> <p>○読む話す聞く活動の重視</p> <p>●各場面での目的をもって書くことの充実</p> <p>○「比較・関連付けの力」の育成に重点</p> <p>●段落相互や全体と部分の関係の把握</p> <p>○「委ねる学び・授業づくり」の更なる推進</p> <p>●学習計画表の作成・活用</p> <p>●カリキュラムマネジメントの推進</p> <p>●振り返りの時間の重視</p> <p>●同歩を充実させるための方策の検討</p> <p>○デジタルを活用した個別最適化と協働的な</p> <p>●算数における基礎学力の定着を図るための方策の検討(TVDドリルの廃止)</p> <p>●算数少数数でのレディネステスの活用</p> <p>●算数確認テストの導入</p> <p>●学力確認テスト(国語・算数)の実施及び結果分析の周知</p> <p>●授業参観と保護者会をセットにした機会を学期一回実施</p> <p>●立川市民科を中心とした、各教科等の重点単元との関連を明確にしたカリキュラムマネジメント表の活用・改善</p>	
	ゆたかな心の向上	<p>◆自尊感情や自己肯定感を高め、自信をもって行動できるように、日常の学校生活だけではなく、学校行事等において、家庭や地域の方々も含め、互いの良さを認め合う場面や、信頼や自己有用感につながるような場面を多く設定する。</p> <p>◆子どもたちが自分の良さを発揮する場面を設定するとともに、子どもたちが行動する前の励ましややる気にさせる声掛けを的確に行う。</p> <p>◆児童への指導に当たっては、「認める・ほめる・価値付ける」という3つの段階を踏まえる。</p> <p>◆8つの「ゆたかな心」のうち、各クラスの課題である「ゆたかな心」に着目し、その解決を図る取組を具体的に設定する。</p> <p>◆全校的な課題である、「困っている児童に声をかけたり大人に相談したりする心」の育成やいじめの未然防止のために、年3回のふれあい月間において、校長による全校道徳及び全校的な取組を引き続き行う。</p> <p>◆いじめの早期発見・早期対応に向けた取組では、今後も引き続き、保護者と連携しながら、いじめ防止対策委員会を中心に、組織的に取り組む。</p> <p>◆道徳授業地区公開講座では、学校における働き方改革の観点から平日開催とするが、学校と保護者・地域の方々と車座になって、子どもたちの心について直接的に意見交換をする場を設定する。【※2】</p> <p>◆教職員の人権感覚をさらに高められるように、校内OITや校長通信等を活用して、研修を深める。</p>	<p>◆自己肯定感・自己有用感を高める力の向上</p> <p>○左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>◆自己肯定感・有用感を高める取組・言葉かけの重視</p> <p>◆自分たちのよさを自覚し発揮し認め合える場の設定</p> <p>◆自分自身を振り返り次につなげていく取組の重視</p>	<p>○左記に関する保護者及び児童アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>○左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>84 A</p> <p>92 A</p> <p>100 A</p>	<p>◆児童と保護者のアンケートから、肯定的な評価が、5ポイントアップして、過去3年間で初めて、8割を超えた。</p> <p>◆「自分の行動や発言に自信」は例年通り低いが、別の調査で「自己有用感」「自己効力感」について調査したところ、高学年で9割を超え、年度内でも2～3ポイントのプラスの変容が把握できた。</p> <p>◆教員の行事ごとの振り返りから、今年度新たに大きな学校行事ごとに行った。自己有用感を高める施策が子どもたちにとって自分や友達を見つめる目になったことが把握できた。</p>	<p>◆考察の内容は概ね妥当である。</p> <p>◆自分に自信をもつことは大切である。</p> <p>◆児童はその時の心の状況によって左右される部分はあるとは思いますが、考察のような環境づくりをしつかり行うことが重要である。</p> <p>◆「ゆたかな心の育成」は家庭や地域と一緒に考えていく必要がある。</p> <p>◆8つのゆたかな心は育ってきていると思う。</p> <p>◆学校全体で励まし合う声掛け、音楽発表はぜひ続けてほしい。</p> <p>◆認める・ほめる・価値付けるは大人目線で良い子を求めてしまい、児童が大人の顔色を伺う、良い子を装うようなことにならないように留意する必要がある。</p> <p>◆見守る・受け入れる・共感する・言語化するなどがよい。</p> <p>◆学年を超えた行事の取組は良かった。</p> <p>◆行事ごとに中心となる子が変わっていくことも自己肯定感を高める取組としてよい。</p> <p>◆自己有用感の向上につながる取組が効果をあげている。こうした取組をさらに充実させてほしい。</p>	<p>◆日常の学校生活だけではなく、学校行事等において、家庭や地域の方々も含め、互いの良さを認め合う場面や、自己有用感や自信・自己効力感につながるような場面を引き続き多く設定する。</p> <p>◆子どもたちが自分の良さを発揮する場面を設定するとともに、子どもたちが行動する前の励ましややる気にさせる声掛けを的確に行う。</p> <p>◆児童への指導に当たっては、「認める・ほめる・価値付ける」という3つの段階を踏まえる際には「見守る・受け入れる・共感する・言語化する」という点も大切にして、一人一人の良さを伸ばす。</p> <p>◆8つの「ゆたかな心」のうち、各クラスの課題である「ゆたかな心」に着目し、その解決を図る取組を具体的に設定する。</p> <p>◆全校的な課題である、「困っている児童に声をかけたり大人に相談したりする心」の育成やいじめの未然防止のために、年3回のふれあい月間において、校長による全校道徳及び全校的な取組を引き続き行う。</p> <p>◆いじめの早期発見・早期対応に向けた取組では、今後も引き続き、保護者と連携しながら、いじめ防止対策委員会を中心に、組織的に取り組む。</p> <p>◆道徳授業地区公開講座の座談会の充実を図るを模索する。</p>
地域と共に歩む学校づくり		<p>◆立川市民科については、前述した通り(※1)充実を図る。</p> <p>◆今年度から実施している新しい形の学校行事は引き続き実施するが、立川市民科学習発表や音楽発表については、児童の負担軽減と保護者・地域のニーズに即した効果的な学校公開の推進の観点から、それぞれ別日の土曜公開とする。</p> <p>◆道徳授業地区公開講座は前述のとおり(※2)とし、学校と保護者・地域との直接的な対話の機会を増やす。</p> <p>◆昨年度から実施している年間2回の保護者個人面談を来年度も継続して実施するとともに、日常的な報告・連絡・相談を含め、保護者・地域のニーズに寄り添い、きめ細やかで親身になった丁寧な対応を心がける。</p> <p>◆ICTを利活用し、学校ホームページ等を通して、タイムリーな情報提供や意見把握をさらに推進していく。</p> <p>◆保護者・地域・学校の状況に即して、可能な範囲で連携・協働体制を充実させていく。</p> <p>◆教育活動の充実を図るため、学校における働き方改革を推進しながら、業務の重点化・焦点化・簡素化をさらに推進していく。</p>	<p>◆保護者・地域との協働体制の強化</p> <p>○左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>◆学校・家庭・地域が連携・協働した取組の推進</p> <p>◆地域に根ざした立川市民科の単元開発の推進【再掲】</p>	<p>○左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p> <p>○左記について、学年・学級の発達段階や実態に即した取組状況を記述式アンケートを実施する。肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>88 A</p> <p>94 A</p> <p>100 A</p>	<p>児童と保護者のアンケートから、肯定的な回答率が3ポイントアップしたが、9割に届かなかった。</p> <p>◆同アンケートの記述欄から、学校公開の趣旨ねらいと発達段階に即して、創意工夫している様子がかがえた。地域と連携した単元開発を行った学年もあった。</p>	<p>◆考察の内容は概ね妥当である。</p> <p>◆教員と保護者が以前よりコミュニケーションが図れているように思う。</p> <p>◆保護者が学校で行うことについて理解できると児童もさらに学校が好きになると思う。</p> <p>◆身近な人や地域の方と関わることによって思考が変化し成長の一助になる。</p> <p>◆地域の方の助言を受けながら、のびのびと活動している様子がかがえた。</p> <p>◆新生小の歴史の一端を担う「みらいパーク」について、学習が深まっていた。</p> <p>◆立川市民科での各教科等との連携、保護者・地域との連携・協働が充実し、関係が深まってきている。</p> <p>◆立川市民科の学習発表はたいへん素晴らしい。もっと地域にアピールしてほしい。</p> <p>◆地域を良くしようとする思いが伝わる。</p> <p>◆道徳の意見交換会により多くの方に参加してもらいたい。</p> <p>◆新しい形の学校行事を、様々な方の意見を聞き、さらにブラッシュアップしてほしい。</p>	<p>◆今年度から実施している新しい形の学校行事である、立川市民科の学習発表や音楽発表については、児童の負担軽減と保護者・地域のニーズに即した効果的な学校公開の推進の観点から、さらに検討を重ねる。</p> <p>◆道徳授業地区公開講座は前述のとおり</p> <p>◆年間2回の保護者個人面談を来年度も継続して実施するとともに、日常的な報告・連絡・相談を含め、保護者・地域のニーズに寄り添い、きめ細やかで親身になった丁寧な対応を心がける。</p> <p>◆ICTを利活用し、学校ホームページ等を通して、タイムリーな情報提供や意見把握をさらに推進していくが、個人情報に配慮した情報提供の在り方を検討していく。</p> <p>◆保護者・地域・学校の状況に即して、可能な範囲で連携・協働体制を充実させていく。</p> <p>◆教育活動の充実を図るため、学校における働き方改革を推進しながら、業務の重点化・焦点化・簡素化をさらに推進していく。</p>
		<p>◆保護者・地域との双方向の関係の充実</p> <p>○左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>○左記に関する保護者等アンケートを実施し、肯定的な回答を8割以上にする。</p>	<p>88 A</p> <p>94 A</p> <p>100 A</p>	<p>◆保護者アンケートから、肯定的な回答率が1ポイントアップしたが、9割に届かなかった。</p> <p>◆同アンケートの記述欄から、年間2回の個人面談等を有効活用するとともに、児童の状況に即して、保護者の方と連絡帳や電話等で、こまめにやり取りしたという意識の教員が多い。連絡・面談等の時間設定に苦慮している様子も引き続きかがえた。</p>	<p>◆保護者・地域との双方向の関係の充実に関しては、9割に届かなかったが、比較的高い評価をいただいた。今後は今度以上に、具体的な場面をとりえて、親身になった直接的なやり取りを重視し、情報連携・行動連携を図っていく必要がある。</p> <p>◆さらに、個人情報に配慮しながら、ICTを利活用して、タイムリーな情報提供や意見把握を行う必要がある。</p> <p>◆保護者・地域のニーズと、学校における働き方改革の両面から教育活動の充実を考え、業務の重点化・焦点化・簡素化をさらに推進していく必要がある。</p>		